



『盈たして進む IV』

楽しかった集会と遠足

4月18日（金）は『1年生を迎える会』と『歓迎遠足』でした。いつものように振り付き歓迎の歌「ドキドキドン！1年生」で会がスタート。この後の自己紹介は、どの学級もあまりはしゃぐことなく、落ち着いた感じで進みます。「あれ、いつもの元気がないなあ。」と心配していましたが、じゃんけん列車の時にはたくさんのはしゃぎ声が出るようになり、上級生の雰囲気やや押し気味だった1年生もようやく笑顔が見られ安心しました。2回行いましたが、どちらとも1年生が最後まで残って優勝！「さすが盈進っ子、分かってるねえ。」という声が飛び交いました。



しばらくして、天保海岸へ出発。いつもなら干潮時刻にぶつかるはずが、なぜか今年は満潮。しかも、前日の時化で大量の海藻が漂着しています。いつもの潮だまり観察はできません



んでしたが、それはそれで、仕方ないと納得の子ども達。シーグラスを探したり、流木で遊んだり、小石で水切りをしたりして、思い思いに遊びました。

大変だったのは6年生。縦横無尽に動き回る1年生にピタリとくっついて見守ります。「そっちはあぶないよ。」「これ、おもしろいね。」などと声をかけながら、最高学年の役目をしっかりと果たしてくれました。えらい！

伝統をつないでいくこと...

先日、琴石地区を訪ねました。もちろん、心地よい春風を受けて優雅に泳ぐ鯉のぼりを見に行くためです。今回が初めてでした。校区内ではありませんが、すぐに行けそうだからこそ、なかなか行かないことってありますよね。私もそんな感じだったので。高台から実際に眺めて見ると、決して大きいとは言えない集落に150匹ほどの鯉が泳ぐ様は、まさしく圧巻でした。下から見ると、また違った雄大さを感じることもできました。



みなさんもお存じの通り、この取組は今後の維持が難しく、昨年度で終わりを迎えようとしていたものです。そのような中、地区の中から引き継ぐ住民が現れ、今年度以降も継続することになりました。地域の伝統を受け継いでいくことは大変なことですが、「人とふるさとを思う心」があるからこそ、つないでいけるのだと思います。



今年から鼓笛隊の2年生
鍵盤ハーモニカの練習中！

盈進の子ども達にも、「ふるさと盈進を思う心」をずっと持ち続けてほしいということは誰もが思うことです。であれば、地域のためにそして子ども達のために、どのようにして「盈進の伝統」を受け継ぎ、つないでいくか、私達大人が真剣に向き合い、責任を持って考えていかなければなりませんね。